

【目的】

研究の必要性として、体質を改善するためには、鍼灸やマッサージのみでは限界があると考え、内呼吸を強くする必要があると考えた。また評価として記録することにより、成果をあげる精度を高くできると考えた。動機としては、心臓リハビリテーションにおける原理の応用を考えた。狭心症患者さんは、心筋への酸素供給度が少なくなると、虚血発作を起こす。そのためリスク管理に《ダブルプロダクト値》をコントロールする。【心拍数 × 収縮期血圧 = ダブルプロダクト】DPの数値は、心筋の酸素消費量と相関関係があると言われており、狭心症患者さんの運動限界値の値を記入しておきます。すなわち数値が高いほど活動範囲は大きくなるというエビデンスに着目した。

【方法】

弊社に通院されている、不妊治療中の女性患者さんを、バイタル（血圧・呼吸数・脈拍・SPO2）値を、治療前と治療後に計測を行なった。対象は、20代～40代才までの女性20人に行い、測定にはテルモエレマーノ血圧計、ニッセイのパルス FITを使用し、室温は26度、治療前仰臥位にて5分経過後、治療終了後5分経過時の2回のタイミングで午前10時から午後16時の間で実施した。鍼灸マッサージ治療自体は、下肢と腹部の代表的な経穴に鍼灸を行い、仰臥位での良肢位を構築するメディカルマッサージと形態アプローチを行なった。

グループは（26才から30才）Bグループは（31才から35才）と収縮期血圧（systolic blood pressure）1分間の拍動数（beats per minute）SPBとBPMの平均値をそれぞれグラフ化した。【図1、2参照】

【結果】

グループ	SBP 治療前	SBP 治療後
A(26～30)	52mmHg	68mmHg

図1

グループ	BPM 前	BPM 後
A(26～30)	67	65
B(31～35)	70	68

図2

Aグループ・Bグループともに、SBP 向上と BPM 低下が見られた。上記をもとに Aグループ、Bグループの、DB 値を比較する【図3参照】

	治療前	治療後
AグループのDB値	3484	4420
BグループのDB値	3780	4216

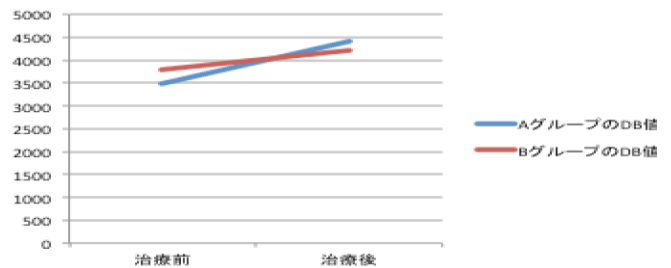
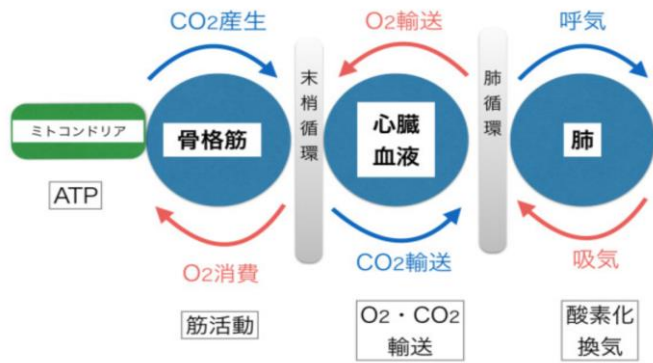


図3

【結果】

Aグループ・BグループともにDB値の向上が見られた、特にAの変化が大きく出ている。安静時になってすぐの筋血流などが関係していると考えた。結果から推測できることは、鍼灸マッサージの治療後、一回拍出量は増加し、静脈環流量も相関している。さらに今回はデータには残していないが、呼吸が深くなり SpO2 値も向上した患者さんが多かった。体内の内呼吸・外呼吸が治療前より多く行われていることが理解できる。すなわち細胞中のミトコンドリアへ多くの酸素が運ばれている状態が考えられる。特にSBPが上昇するメリットは、代謝の低い女性には多きものと思われる。

ワッサーマンの歯車



【考察】

不妊領域において、鍼灸マッサージの効果効能を、客観的に把握するためには、バイタルの管理が重要で一番エビデンスレベルが高いと考える。人は生命活動を常に営んでいるさいに、3つの大きな歯車があるといわれている。以下が【ワッサーマンの歯車】という理論である。

1 肺ポンプ 2 新ポンプ 3 筋ポンプであり、その3つのポンプをうまく循環させるかにより、基礎代謝は必ず変化する。社ではリハビリテーション不妊治療を取り入れてから、患者さんの治療結果が格段に向上してきている。【図4参照】

	平成25	平成26	平成27	平成28
妊娠数	25	30	45	51
患者数	80	93	113	110

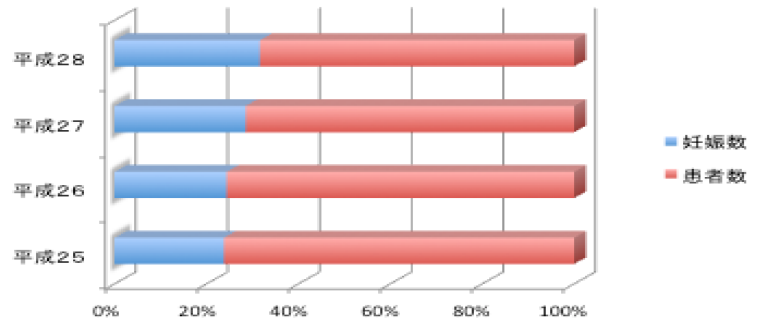


図4

必ず人は動くたびに酸素を必要であり、細胞の再生も同様です。健康の要である、栄養・休養・運動のバランスで管理でも、バイタルが重要です。だからこそ健康に導く鍼灸マッサージは、しっかりバイタル管理を行い、正しい知識の元で患者さんの問題点も明確にし、それに対する的確な方法論が提供可能です。経験や知恵だけに頼ることなく、エビデンスレベルに基づいてこそ、結果患者さんを笑顔にすることが可能なのです。今後の展望として弊社では高精度体組成計や自律神経診断機や末梢血流診断機となどもあるために、今後のこの研究を様々な方面から追求したいと考えている。

参考文献：基礎運動学 運動療法学 市橋則明 病気が見える VOL2 循環器 循環器疾患のリハビリテーション